

2025 年度物流コスト調査（記入要領）

電子メールによるご回答

本調査では、同封の返信用封筒にて回答用紙をご返送いただいておりますが、エクセルファイル（自動計算付）への入力および電子メール送信によるご回答も承っております。手順については以下をご参照ください。

【回答手順】

- ① 下記ホームページにアクセスする。もしくはQRコードをご利用ください。

アドレス <https://www1.logistics.or.jp/data/cost.html>

「物流コスト調査」で検索していただければ上位に表示されます。

- ② エクセルファイルをダウンロードする。
- ③ エクセルファイルに入力する。
- ④ 回答ファイルを添付し下記メールアドレスに送信ください。

返送先アドレス mitani@logistics.or.jp



※回答結果は厳重な管理のもと統計処理を行いますので、具体的な社名などは公表されません。

個人情報の保護につきましては JILS のプライバシーポリシー (www1.logistics.or.jp/privacy.html) をご覧ください。

回答必須項目について

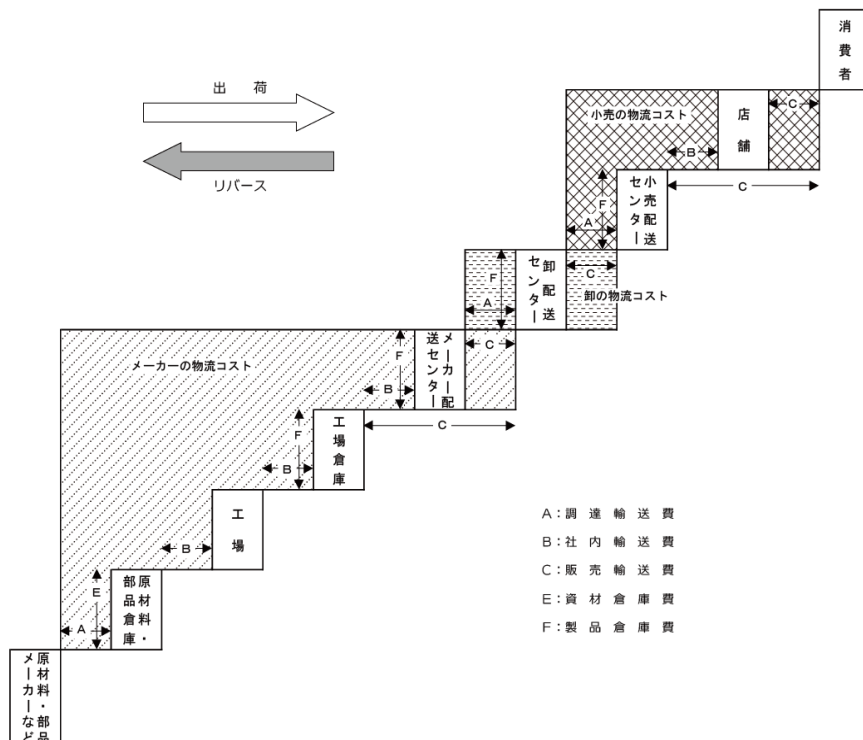
調査報告書進呈の条件として、**問1から問2までの設問**は、必ずご回答をお願いしております。以降の設問は、可能な範囲で、ご回答をお願い申し上げます。

問2 物流コスト

●物流コストの範囲など

- ① 物流コストの範囲は、できるだけ、国内取引に限定してご回答ください。輸入物資については通関後、輸出物資については通関前までの物流コストをご回答ください。
- ② 正確な金額が把握できないときは、概算額でも結構です。
- ③ 小売業の場合は、主に専用センターを想定してご回答ください。
- ④ ご回答いただく物流コストと物流フローの標準モデルを図示しましたので、下図をご参照ください。

物流コストと物流フローの標準モデル



●回答欄の説明

物流コスト計算表（下記）の各項の（A～J、①～⑦）の記入要領は以下のとおりです。

	支払物流費			自家物流費				物流コスト 合 計
	対物流事業者等支払費 ①		みなし物流費 ③	物流人件費 ④	物流施設費 ⑤	減価償却費 ⑥	在庫費用 ⑦	
	うち物流 子会社②							
物流コスト合計								
輸 送 D								
調達輸送 A								
社内輸送 B								
販売輸送 C								
保 管 G								
資材保管 E								
製品保管 F								
包 装 H								
荷 役 I								
物流管理 J								

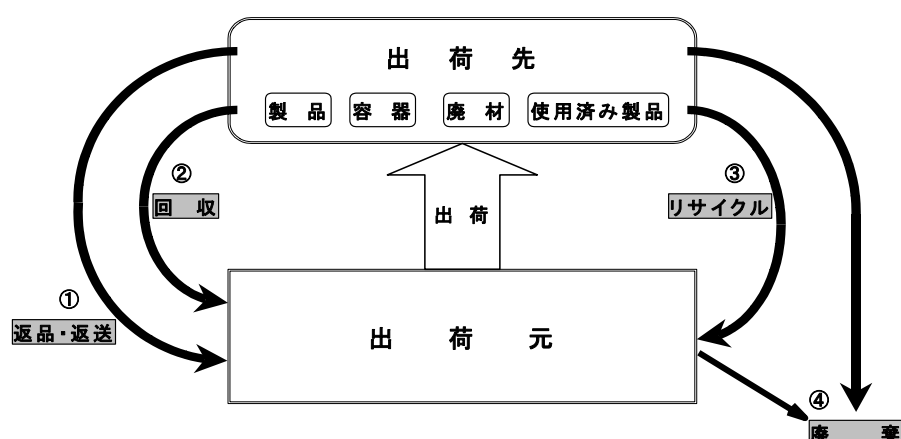
A. 調達輸送費 （メーカーの方） 原材料・部品メーカー、商社などから自社まで、原材料・部品、半製品を輸送するための費用をご記入ください。 （卸売業者の方） メーカーなどから自社まで、製品・商品を輸送するための費用をご記入ください。 （小売業者の方） メーカー、卸売業などから自社まで、製品・商品を輸送するための費用をご記入ください。 なお、先方が持ち込み、輸送費が仕入代金に含まれているなどのため不明な場合は、自社が引き取る際に要すると思われる金額を見積って、 ③欄「みなし物流費」 にご記入ください。	
B. 社内輸送費 （メーカーの方） 工場、倉庫などの自社施設間で、原材料・部品、半製品または製品・商品を輸送するための費用をご記入ください。 （卸売業者の方） 自社施設間で輸送が行われるときのみ、その輸送費をご記入ください。 （小売業者の方） 自社の配送センターから店舗までなど、自社施設間の輸送費をご記入ください。	
C. 販売輸送費 ※消費者に対する通信販売・宅配に関わる輸送費も当該項目に含める （メーカーの方） 自社から卸売業者、小売業者、他のメーカーなどまで、製品・商品、半製品を輸送するための費用をご記入ください。 （卸売業者の方） 自社から小売業者、他の卸売業者などまでの輸送費をご記入ください。 （小売業者の方） 自社から消費者、他の小売業者などまでの輸送費をご記入ください。	
E. 資材保管費 （メーカーの方のみ。卸売業者、小売業者の方は不要です。） 倉庫などでの原材料・部品、半製品の保管費をご記入ください。 なお、包装費と荷役費は、ここから除き、それぞれ、H欄（包装費）とI欄（荷役費）に計上してください。	
F. 製品保管費 （すべての方） 倉庫などでの製品・商品の保管費をご記入ください。 なお、包装費と荷役費は、ここから除き、それぞれ、H欄（包装費）とI欄（荷役費）に計上してください。	
H. 包 装 費 （メーカーの方） 工場、倉庫などで包装を行う場合の包装費をご記入ください。 （卸売業者の方） 倉庫、配送センターなどで包装を行う場合の包装費をご記入ください。 （小売業者の方） 配送センター、店舗などで包装を行う場合の包装費をご記入ください。 なお、包装費については、個装費は除外し、内装費と外装費のみを対象としてください。ギフト用等の包装紙は対象外としてください。	
I. 荷 役 費 （メーカーの方） 工場、倉庫などで荷役（流通加工、ピッキング、仕分なども含む）を行う場合の荷役費をご記入ください。 （卸売業者の方） 倉庫、配送センターなどで荷役（流通加工、ピッキング、仕分なども含む）を行う場合の荷役費をご記入ください。 （小売業者の方） 配送センターなどで荷役（流通加工、ピッキング、仕分なども含む）を行う場合の荷役費をご記入ください。 なお、流通加工とは、値札付け、小分け、箱詰め、組立などをさします。	
J. 物流管理費 （すべての方） 上記に含まれない、情報処理費、センターフィー、本社物流部、倉庫、配送センターなどの管理・運営に必要な費用をご記入ください。 なお、情報処理費は、物流に使用している部分を見積って、この欄に加算してください。	

① 対物流事業者等支払費、② うち物流子会社 運送業者、倉庫業者、包装業者、荷役業者などに実際に支払った金額を、①欄（対物流事業者等支払費）にご記入ください。 また、貴社の物流を扱う物流子会社がある場合には、その物流子会社に支払った金額を、②欄（うち物流子会社）にご記入ください。
③ みなし物流費 調達輸送費を記入する際に、先方が持ち込み、輸送費が仕入代金に含まれているなどのため不明な場合は、自社が引き取る場合に要すると思われる金額を見積もって、③欄（みなし物流費）ご記入ください。
④ 物流人件費 本社、倉庫、配送センターなどで物流業務に従事する役員・社員、パート・アルバイトなどに支払った給料・手当、賞与のほか、付加給付分も加算してご記入ください。付加給付とは、福利厚生費や退職金・年金などのことですが、わからない場合は、概算額で計算してください。
⑤ 物流施設費 物流に使用している固定資産（土地、建物、機械・設備、車両など）の運用・維持に要するすべての費用をご記入ください。ただし、支払物流費および⑥減価償却費は除きます。
⑥ 減価償却費と⑦ 在庫費用 は、実際の現金の支出を伴いませんが、物流コストとして計上してください。
⑦ 在庫費用 倉庫や配送センターなどで保管中の「在庫品」について、取得価額（製造原価または仕入原価）に概算率＝１０％を掛けた金額を在庫費用としてご記入ください。在庫品は製品・仕掛品・原料を含みます。また、自社倉庫・外部倉庫保管分を含みます。 在庫費用＝期末在庫額×１０％ 「期末在庫額」は、直近の期末在庫または平均期末在庫（直近１年間の各月末在庫の合計を12で割った平均値）としてください。 ※自社基準で算定した在庫費用の回答も可能ですが、その場合は算定基準を教えてください。 ＜参考＞「概算率」は、在庫に関わる租税、保険料、陳腐化損、荷役費、貯蔵費、金利などを包括した費用率です。 在庫費には、次の各費目が含まれます。 - 租 税：倉庫の固定資産税と不動産取得税 - 保険料：倉庫と在庫の火災・盗難保険料 - 陳腐化損：在庫が旧式・陳腐化したために生ずる値下がり額 （荷役費：入出庫および在庫中の在庫品の荷役費）※荷役費はここでは含まず、Ⅰ欄（荷役費）に計上することとしています。 - 貯蔵費：倉庫で貯蔵するために要する諸費用 - 金 利：倉庫および在庫の金利（資本コストのことで、自己資本利子も含む）

問４ リバース物流費

この項目は、問２で算出された物流コストの内数として、リバース物流費（返品・返送、回収、リサイクル、廃棄に関わる物流コスト）を回答していただくものです。問２「物流コスト合計」の額に含まれるリバース物流費をご記入ください（金額の記入が困難な場合は、問２「物流コスト合計」に含まれる割合を見積もり、その割合（％）をご記入ください）。この調査では、リバース物流費を以下の４種類に分類します（下図参照）。

①返品・返送物流費	製品を、出荷先（消費者も含む）から返品・返送するために要する物流費。
②回収物流費	容器（パレット、コンテナなどの輸送用資材を含む）を再使用するために、出荷先（消費者も含む）から回収するために要する物流費。
③リサイクル物流費	容器（パレット、コンテナなどの輸送用資材を含む）、梱包用発泡スチロールなどの廃材、使用済み製品を、新たな原材料・部品として再利用（再資源化）するために要する物流費。
④廃棄物流費	製品、容器（パレット、コンテナなどの輸送用資材を含む）、梱包用発泡スチロールなどの廃材、使用済み製品を、廃棄するために要する物流費。 なお、これには、出荷先から直接廃棄されるものおよび出荷元に戻された後に廃棄されるものに関わる物流費も計上してください。生産過程で発生した廃棄物や資源ゴミなどに関わる物流費は、「リバース物流費計算表」ではなく、「物流コスト計算表」に計上してください。



問7 ロジスティクス指標の変化について

(2) 在庫管理に関わる指標について

①在庫日数	・棚卸資産のうち、「商品」「製品」の在庫金額を1日当たりの売上高などで割ったもの。
②棚卸差異率	・棚卸の際の帳簿在庫と実在庫との誤差を棚卸差異といいます。在庫金額・在庫数量に対する棚卸差異の割合の変化についてご回答ください。
③棚卸資産廃棄損	・棚卸資産廃棄損とは、「旧型製品」「季節商品の売れ残り」「死に筋商品」「返品された商品」など売れ行きに問題のある商品・製品や、「賞味期限切れ」「破損」などの問題がある商品を、期間中に廃棄処分した際の損失・費用のことをいいます。
④滞留在庫比率	・在庫日数が一定の基準（基準は各社で設定）を超えたアイテムの割合の変化についてご回答ください。

(3) その他、ロジスティクス指標について

①配送件数（納品件数）	・年度内の平均的な時期の1日あたりの延べ配送（納入）件数の変化について回答ください。
②欠品率	・受注の際に在庫切れで販売（受注）できないことを欠品と言います。受注行数に対する欠品行数の割合の変化について、ご回答ください。
③誤出荷率	・誤出荷とは、品違い、数量違い、配送先間違いのことを言います。受注行数に対する、誤出荷件数の割合の変化について、ご回答ください。
④遅配・時間指定違反率	・受注行数に対する、遅配（納期に遅れること）、及び、時間指定違反（納入指定時間に違反すること）件数の割合の変化について、ご回答ください。
⑤荷傷み発生率	・受注行数に対する、荷傷み（汚損・破損・品質劣化など）発生件数の割合の変化について、ご回答ください。
⑥返品率	・返品理由（商品の不具合、誤出荷、需要予測ミス、委託販売によるものなど）は問いません。返品金額を（売上高＋返品金額）で割って求めます。
⑦SKU数	・SKU（形状、色、サイズなどの最小単位で数えた商品・製品の最小の管理単位：Stock Keeping Unit）数の変化について、ご回答ください。

問9 物流施策の貢献度について

(3) 実施した物流施策の選択肢（回答用紙の該当する番号に○を付けてください）

過去1年程度の間に実施した物流施策をすべて選び、回答用紙に○を付けてください。

なお、下記の例のように、一つの物流施策が、内容的に複数の選択肢に当てはまる場合がありますが、このような場合には、一つの物流施策に対して一つの選択肢に○を付けるのではなく、当てはまるものすべてに○を付けてください。

- 例） ・配送頻度を見直した（7項）、配送単位・ロットを見直した（8項）→7・8項に○
・物流アウトソーシング化（27項）に伴い、自社の人員を削減した（33項）→27・33項に○
・在庫拠点を廃止し（14項）、工場からTCへの直送化を進めた（12項）→14・12に○

問10 物流業務の外部委託と物流効率化法への対応状況

設問(3)～(8)は、2024年5月15日に公布され、2025年4月1日より施行された「物資の流通の効率化に関する法律（以下、物流効率化法）」に基づく設問です。物流効率化法では、全ての荷主に対し「積載効率の向上」および「荷待ち・荷役等時間の短縮」に向けた努力義務が定められています。設問(3)～(7)では、関連して設定している具体的な数値目標等や取り組みについてご回答ください。

荷主企業またはチェーン展開する事業者（例：フランチャイズチェーン、チェーンストア）で、年間取扱貨物が9万トン以上ある場合、「特定荷主」または「特定連鎖化事業者」に該当し、中長期計画の作成や定期報告、物流統括管理者の選任などが義務づけられます。設問(8)においては自社の年間取扱貨物が9万トン以上か否かご回答ください。「物流効率化法」の詳細については下記ホームページをご参照ください。

※「物流効率化法」理解促進ポータルサイト（<https://www.revised-logistics-act-portal.mlit.go.jp/>）

【問い合わせ先】 公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 JILS 総合研究所（担当：三谷）
〒105-0022 東京都港区海岸 1-15-1 スズエベイディウム
e-mail:mitani@logistics.or.jp